

ライフケアガーデン湘南 3階

症例概要 利用者：80代 女性 要介護2

利用期間：2024年5月～7月現在

経過：独居生活で転倒骨折入院。リハビリを経て回復しましたが、認知症進行・てんかんがあり独居生活は困難な状態。

入居当初は落ちつかず、同じことを繰り返すことが多かったが、ユマニチュードケアの実践と愛情持って親身な対応を心がけ、短期間で劇的に笑顔が増え・安心され落ち着いた生活が出来るようになった事例

内 容

2023年9月に夫が他界し自宅にて独居生活。2024年1月に転倒骨折され体動困難で救急搬送となる。意識障害があり入院当初は意思疎通がとれない状態となる。治療やリハビリを経て回復されるが、認知症の進行・てんかん症状があることから自宅での生活が困難な状態となり、同年5月にライフケアガーデン湘南に入居となる。

入居当初は、他のご入居者のドアを開けてしまう事やスタッフの姿を見ると後を追いかけて、つじつまがあわないことを何度も繰り返し訴え、落ち着かないご様子が続いていました。

その後すぐ認知症状や訴えをスタッフ間で情報共有し、どう関わりを持つ事で落ち着かれるかなどスタッフ間でケア目標を共有。

生活の中でとくに「セコム大丈夫ですか?」という発語が繰り返されている事に着目。ご主人を失い一人暮らしをしていた時に、寂しさから形を変えセキュリティを心配されて何度も同じことを繰り返し発語する可能性があり、手や背中に触れる・目線を意識することで穏やかになることが分かりました。また、お声かけで「セコムしています」とお伝えして戸締りを一緒に確認、安全な場所と認識していただけるよう声掛けを統一。

ユマニチュードケアでは、安心して頂けるよう優しく『触れる』『目線を合わせる』事を実践し特に意識しました。

6月には、レクリエーション担当が主体で、塗り絵・折り紙・エアロバイクをする時間を作りました。

少しずつ活気や笑顔が増える中、生活の活性化を図るため勤務者ボードの写真張替えや職員と一緒にいご自身でできることが増えるようになりました。外出企画で紫陽花ドライブやピクニックにも参加し表情が穏やかになりました。

様々な取り組みやレクリエーションを通して、日に日に笑顔が増え、分かり合えるお友達も出来ました。

往診医でありキーパーソンの息子様からは、入院時より反応が良くなった。とコメントを頂くことができました。

短期間で状態が落ち着いた事は常にユマニチュードケア・愛情を持って親身な対応が実践出来ている為と感じました。

今後も、ourteamで質の高いケアに努めていきます。